

令和6年度 上半期 まちづくり活動報告

東部地区まちづくりセンター

lide 東部まちづくり未来塾キックオフイベント

4月21日(日)東部地区まちづくりセンターにおいて、「lide 東部まちづくり未来塾」を開講。東部地区が持続可能な地域であるためには「何が必要か？ 何ができるのか？」を考え、現状を正しく認識し、学び、行動を起こすための場として始まりました。キックオフイベントとして、塾長である山形大学人文社会科学部の山田浩久教授から「飯豊町の現状と今後の課題」と題して基調講演をいただきました。



令和6年度「水芭蕉群生地開園セレモニー」を実施

4月18日(木)上代地区の眺山水芭蕉群生地で「水芭蕉園オープンセレモニー」が開催されました。式典には、眺山観光協会、添川財産区の関係者および添川小学校の児童など約40名が参加しました。

冒頭、主催者側を代表し眺山観光協会の佐藤芳栄会長より「多くの方の協力で水芭蕉群生地を守ってきた。すばらしい水芭蕉の姿を、皆さんで楽しみ、これからも守り続けて欲しい」とあいさつがありました。続いて咲き並ぶ水芭蕉前で、添川小学校の3・4年生18名が整列、テープカットを行いました。

また、セレモニーの後は、タブレットを持参した小学生たちが、思い思いの場所で写真撮影を行い、水芭蕉の魅力を楽しんでいました。



令和6年度文化部新企画「東部の魅力川柳大会」を実施

今年度の文化部新企画として、「東部の魅力川柳大会」を開催しました。

これは、一昨年から始まりました眺山観光協会主催の「東部の魅力フォトコンテスト」に続いて、「東部の魅力発信と文化活動の充実を図る取り組み」です。

東部地区の川柳愛好会である「眺川柳会」は100年余の歴史を誇る愛好会です。その歴史に学びながらも現代の視点・感性で「東部の魅力」を川柳にしてみたいと思います。

今回の川柳大会には、27名が参加。79句の応募がありました。

結果は公民館報でお知らせし、上位入賞者には、文化祭で表彰されました。

lide 東部まちづくり未来塾「第1回ワークショップ」開催

7月5日(金)東部地区まちづくりセンターにおいて、lide 東部まちづくり未来塾(塾長:山田浩久 山形大学大学院教授)「第1回ワークショップ」を行い、未来を想定し、理想に近づくために何が必要かを意見交換しました。

ワークショップの進め方としては、①まず、「ビジョン」を明確にする(終着駅・理想的なものでよい) ②ビジョンを達成するためにやれること、やらなければならないこと(アクションプラン)を明確にし、それぞれの取組みをつなげていくことなどを意識して様々な意見が出され、課題を具体的に解決していくための方法・進め方など参加者の大きな「学びの場」となりました。



東部の魅力フォトコンテストを開催

今年3回目になる当コンテストは眺山観光協会が主催し、東部地区の魅力を収集、発信する事を目的としています。

眺山観光協会が管理する水芭蕉群生地のPRも含まれますが、それ以外の東部地区の魅力を再発掘し、地域に周知していきたいとも考えています。

募集期間は4月から6月末までとし、審査会を経て、当年度の文化祭に展示します。優秀作品は文化祭にて表彰も行います。

2024年
いいで町 東部の魅力
フォトコンテスト
作品募集

主催：眺山観光協会 共催：東部まちづくり未来塾

応募締切 令和6年 6月 28日(金)必着

募集作品 ①水芭蕉群生地以外の東部地区の魅力を捉えた写真(2024年4月1日～6月30日撮影) ②東部地区の魅力を捉えた写真(2024年4月1日～6月30日撮影) ③東部地区の魅力を捉えた写真(2024年4月1日～6月30日撮影)

注意事項 ①応募作品は東部地区文化祭にて展示させていただきます。 ②応募作品は東部地区文化祭にて展示させていただきます。 ③応募作品は東部地区文化祭にて展示させていただきます。

令和6年度「東部の魅力フォトコンテスト」審査会開催

7月23日(火)東部地区まちづくりセンターにおいて、令和6年度「いいで町東部の魅力フォトコンテスト」(眺山観光協会主催)審査会を開催し、大人の部36点、子どもの部21点の応募作品の審査を行いました。

大人の部の作品は、評価が拮抗し、当初入選以上が5点であったものを7点と拡大して評価・審査されました。また、子どもの部の作品も東部の魅力を感じさせるレベルの高い作品が評価されました。

各賞の入賞者は、10月27日(日)の文化祭にて入賞作品の展示と表彰式を行いました。



令和6年度自主防災会合同企画「防災フェア」開催

8月3日(土)東部地区まちづくりセンターにおいて、東部地区自主防災会合同企画の「防災フェア(防災対策研修会)」が開催されました。

これは、一昨年の「8.3 豪雨災害」の教訓を活かし、防災意識の向上と避難時の判断ポイントなど知識の習得を目的として実施しました。

今回は山形県庁作成の「土砂災害から命を守る」DVD 研修も行い、自主防災組織の役員や地区民が来館し、地区まちづくりセンターの配備品・備蓄品などを確認し、避難のあり方など役立つ資料などを手に取り確認していました。



第36回「添川温泉ふるさと祭り」開催

8月14日(水)「第36回添川温泉ふるさと祭り」が、しらすぎ荘様・東部地区まちづくりセンター前にて開催されました。

今年はコロナ禍でお休みしていた、ちびっこ広場の『魚のつかみ取り』が復活、一人3匹までという制限があるためか、子どもたちはお魚を捕獲するよりも水遊びに夢中になっていました。真夏の暑い日差しの中でしたが、思い切り水遊びする子どもたちは楽しそうで、笑顔と歓声が会場に響きました。

午後4時45分から添川温泉ふるさと祭りの開会式を実施。今年は22名の飯豊中学生がボランティアに参加。開会式で意気込みを語っていただきました。

開会式の後には、地元有志団体である『ザ・ブーケ』が、今年は新しく『アンパンマンのサンサン体操』を追加で披露。会場からアンコールの声が挙がり、急遽披露したマツケンサンバで会場は大盛り上がりとなりました。

ダンスステージの後は盆踊りの予定でしたが、土砂降りの雨で、残念ながら中止としました。その後会場をまちづくりセンターの大ホールに移動し『上杉エイサークラブ』によるエイサーの演舞を披露いただき、間近で聞く太鼓の迫力と、揃ったパフォーマンスは圧巻でした。

閉会式では、各地区参加表彰と毎年恒例の抽選会を行い終了となりました。



令和6年度上半期活動報告の総括

令和6年度はコロナ禍も開け、積極的な地域活動が再開しました。恒例となった水芭蕉群生地の開園セレモニーや、東部の魅力フォトコンテストなどで東部地区の魅力発信を続け、今年度は新たに東部の魅力川柳大会も開催しました。これにより、一層東部地区の魅力発信をはかることができました。

東部地区の伝統である添川温泉ふるさと祭りは地区を挙げて開催。地域住民や有志団体の協力で、東部地区の文化と伝統が次世代へと引き継がれる大切な機会になりました。特に、子ども会育成会の活動や中学生ボランティア活動などを通じ、地区の未来を担う次世代との絆を強める事ができました。また、エイサーを披露して頂いた上杉エイサークラブは、東部地区活性化協議会のご協力により実現。地元団体との連携も強化する事ができました。

新しい活動として、東部地区の未来を考える「lide 東部まちづくり未来塾」が開講しました。地域の課題に対する理解と、未来のビジョンを共有する貴重な場として、多くの住民に参加していただきました。また令和4年の豪雨災害を教訓に、防災がまちづくりの大きな柱であるとして、防災フェアを継続開催。地域の安全意識を高める活動に力を入れています。

今後も、地域の持続的な発展と安全・安心なまちづくりに向けて、世代や地域間の交流を大切にしながら、地域の課題解決と未来に向けた活動を続けていきたいと考えています